

チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	新型コロナウイルス感染症に負けない、持続可能な社会の実現につながるアイデア	山口県宇部市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	^{サイ} 防災ネーじ		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	防災ネーじ		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数（公開）	4名		
代表者（公開）	宮本真由		
メンバー（公開）	山本紗也華 植松大翔 宮本翔平		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

- 応募の際は、ファイル名を COG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー 氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

コロナ禍で変化した社会でも、自分で判断して避難行動ができるようにする。

<この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで・・・>

<「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

インタラクティブサイネージ×防災対策

【内容】

防災関連情報の発信に特化したインタラクティブサイネージを、宇部市内の商業施設に設置する。サイネージには、通りがかった人が短時間で触れることができる様々な防災コンテンツを搭載する。

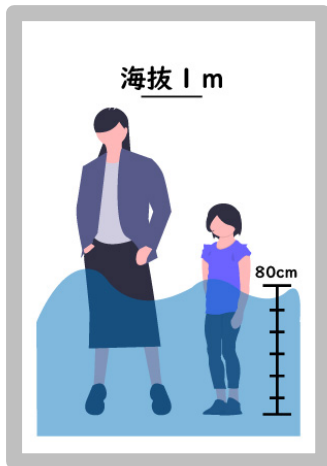
【防災コンテンツ】※3ページ目参照

- ① 一目でわかる波高
…任意の波の高さ（過去の浸水被害や具体的な数値）を選ぶと画面に映った人と合成される。
- ② 正しい被災行動を選ぶクイズ
…「地震でとるべきポーズは？」等、非接触で正解を選ぶ。
- ③ 防災情報の提供
…災害伝言ダイヤルやハザードマップ等に繋がるQRコードを表示する。
- ④ 避難アイテムチェック
…避難時に適切な服装に合成される。サイネージを設置した商業施設でどこに防災アイテムが売られているかも検索できる。
- ⑤ 避難服装チェックイベント
…サイネージ設置場所で定期的を開催するイベント。正しい避難時の服装ができているかどうか、リアルタイムで専門家がチェックする。
- ⑥ 過去の気象災害を知る
…宇部市で起きた台風や大雨の映像が見られる。

【設置場所】

親子連れが多く集まる商業施設。通りがかった子供がサイネージに興味を持ち、親子で一緒に防災対策をすることを想定している。

【防災コンテンツ案】



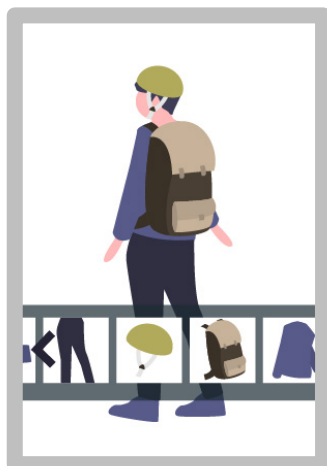
① 一目でわかる波高



② 避難行動クイズ



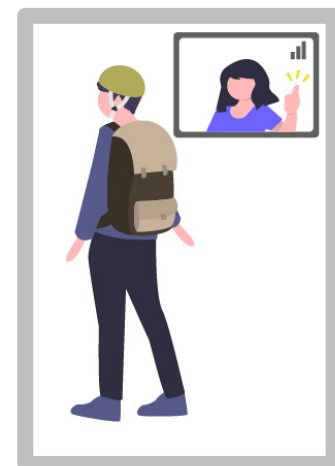
③ 防災情報の提供



④ 避難アイテムチェック



避難アイテムを検索できる



⑤ 避難服装チェックイベント

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます>

【実現したいこと】

1. 自分で判断して行動できるようになる

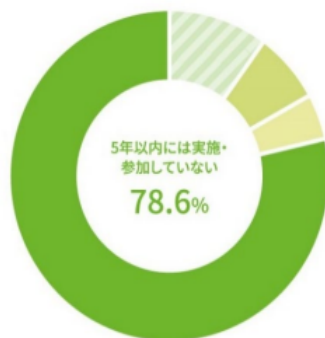
学校や企業で行われている避難訓練は誰もが1度は経験したことがあるが、プライベートで被災することを想定できている人は少ない。全国的にみても、家庭での防災訓練は5年以内に参加していない人が約8割を占めている（※1）

今年はコロナウイルス蔓延の影響により、全国各地で避難所問題が発生した。自宅に待機するか、避難所に行くかというところから「自分で判断すること」が例年以上に求められている。しかし、いざというときに予備知識なく冷静に判断することは難しい。この知識不足を私たち自身が自覚し、解決したいと考えた。そこで、防災知識を日ごろから取り入れるように促し、ひとりであるときに被災したとしても自己判断ができるようにすることを目的とした。

※1：旭化成ホームプロダクツ株式会社「防災意識と備えに関する調査」

https://www.asahi-kasei.com/jp/news/2020/ip4ep30000001mak-att/li200827_1.pdf

Q.あなたは直近でいつ「防災訓練」に参加しましたか。
※職場・学校での経験は除いて、ご家庭（プライベート）で実施・参加された経験についてお答えください。（SA/700名）



1年以内に実施・参加したことがある	10.0%
1年より前～3年以内に実施・参加したことがある	7.1%
3年より前～5年以内に実施・参加したことがある	4.3%
5年以内には実施・参加していない	78.6%

5年以内に家庭で防災訓練を実施・参加していない

 全国推計 **6112** 万人

※統計局データ人口推計（令和元年版）の日本の人口構成比をもとに、ウェイトバック集計を実施

2. 日常の中で防災対策

宇部市民を対象にした防災意識調査(※2)の中で、防災意識はあるものの、「時間がない・何をしたらよいかわからない」等の理由で対策ができていないという声が30～40代を中心に多くみられた。多忙な日常生活で防災対策の優先度が下がっていることを課題として、「日常の中で防災対策を促すためにはどうしたらよいのか」という部分に着目した。

※2：平成30年度・令和元年度 宇部市インターネット市民モニターアンケート

【宇部市の取り組み】

○スマート防災

…宇部市においても、内閣府の未来技術社会実装事業に選定されている「スマートシティ宇部プロジェクト」が進行しており、その事業のひとつに「スマート防災」がある。具体的には、防災に関する住民の関心度について

Level1 無関心層（新型コロナウイルスには感染しないと思っている、ハザードマップを見たことがない、災害のときは行政が助けに来ると思っている等）、

Level2 重要性に気づいているが自分では判断できない層（新型コロナウイルスが流行していることは知っているが、どうしてよいか分からない、どのタイミングで避難したらよいか、どこに避難したらよいか分からない等）、

Level3 自分で判断できるが行動にまで結びついていない層（新型コロナウイルスの対策も知ってはいるが、適切な対策を取っていない、避難勧告もハザードマップも知っているが、まさか起きまいと考える等）、

Level4 自分で判断できて行動できる層（新型コロナウイルスに対する適切な対策を取っている、自分で避難のタイミングと避難先の適切な判断ができ、実際に行動できる等）、

Level5 自分で判断・行動できて周りの方に教えることができる層（率先した感染症対策や避難行動をとり、周りの方に声かけができる等）

の5段階があると仮定すると、Level1が最も多く、順に少なくなっている現状があり、Level4とLevel5の2つの層を増やすことを目指している。防災意識の向上に向け、災害がもし起きた場合に自分の家がどうなるのか等を、よりリアルに体験し実感することができるARやVR等の最先端技術を活用することを推進している。

【インタラクティブサイネージの導入例】

○バーチャルフィッティング / 凸版印刷

…ユーザーの動きに合わせて衣装の画像が表示され、非接触のまま試着ができる。

※参考 URL :

<https://www.toppan.co.jp/solution/service/VF.html>



○ナレルンダー

…仮面ライダーになりきって遊べるアーケードゲーム。

画面の前に立つだけで仮面ライダーに変身した姿が映し出されるため、子供の興味をひく。

※参考 URL : <https://www.narerunda.jp/>



【防災×ARの導入例】

○The Weather Channel / Youtube

…AR でみせる気象情報。ハリケーンによる大洪水被害の予測をリアリティのある AR を用いて解説している。

※参考 URL :

https://www.youtube.com/watch?v=q01vSb_B1o0&feature=emb_title



2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます>

【実現までの流れ】

サイネージの企画・コンテンツ開発は YIC ビジネスアート専門学校の学生が引き継いでいく。2021 年度 4 月の授業から制作を進め、9 月下旬の試験導入を目指す。試験導入は市役所のサイネージで行うことを予定している。

この時期には、同時に市内の設置候補となる商業施設に向けたサイネージの宣伝活動も行う。この設置場所候補は、すでにサイネージを導入している施設を中心に選定する。

設置後は、商業施設と連携して防災イベント開催等、サイネージ自体を活用した広報活動も進めていく。ゆくゆくは設置場所を市外に広げ、山口県全体の防災意識向上に貢献したい。

